

1 チャレンジルーム概要

(1) 事業目的

学校に登校できなくなった児童生徒に居場所を提供し、学習支援や集団活動、相談などを行うことで生活のリズムを取り戻し、社会的自立を目指すことを目的としている。

不登校状態にある児童生徒の不登校要因は多様で複合的であり、基本的な生活リズムの確立、対人スキルの獲得、学力補充、社会性の育成など、さまざまな課題の克服が必要のため生活リズムを整えながら、教科学習や体験活動・集団活動に取り組めるように支援、指導を行う。

(2) 主な事業内容

① 来室児童生徒の支援

来室する児童生徒の学力や不登校の状況に合わせて、学習・体育・読書・美術・技術・家庭科・レクリエーションなどを通して、生活全般にわたった支援活動を行う。対象は原則として市内在住の小中学生であるが、必要に応じて市立学校に在籍する小中学生の支援や卒業生の相談も行っている。

② 電話等による相談

保護者、児童生徒の多様な相談に随時応じている。また、学校から配布されているタブレット（クラスルーム）を活用して児童生徒と連絡を取り合っている。

③ 在籍校と連携した進路指導

在籍校との連携を図り、学習支援や進路指導を適切に行い、それぞれの個性や適性に合った進路先を選ぶことにより、将来への希望が持てるよう支援する。

④ 関連機関との連携

各小中学校や特別支援学級、情緒障害等通級指導学級などとの連絡を密にするとともに、教育支援センターの相談部門、学校派遣相談員、スクールソーシャルワーカー、クレスコーレ及び子ども家庭支援センター等と連携に努め、児童生徒のおかれた状況の改善を図る。また、卒業生については、武蔵野市若者サポート事業「みらいる」とも連携している。

(3) 指導の体制

指導員は教職経験者及び臨床心理士資格または教員免許を所有する者で構成している。令和3年度は8名の指導員（週5日勤務2名、週4日勤務6名）が担当した。

(4) 利用手順

事前に保護者と在籍校が、チャレンジルーム利用を含めた今後の方針について相談した上で、チャレンジルームに見学希望の連絡を入れる。

① **見学**：保護者がチャレンジルームに直接連絡し、日程調整を行う。原則、本人と保

護者が一緒に見学する。

- ② **体験申し込み**：保護者が在籍校へ、チャレンジルームの体験を希望する旨を連絡する。学校では校内で支援方針を検討後、体験を進める場合は在籍校からチャレンジルームへその旨連絡を入れる。学校と確認が済み次第、チャレンジルームから保護者に体験面談の日程を連絡する。
- ③ **体験面談**：児童生徒・保護者・チャレンジルームで面談を実施。状況を聞き取り、生活目標や来室回数等を決める。
- ④ **体験**：設定した生活目標に合わせて体験を開始する。体験の目安は概ね3週間。継続して通うことが難しい場合、在籍校・チャレンジルーム・各関係機関が相談し支援方針を再検討する。
- ⑤ **入室面談**：児童生徒・保護者に入室の意思確認を行う。入室後の支援方針や目標について話し合う。
- ⑥ **入室**：保護者を通じて在籍校へ入室関係書類を渡す。学校は記入後、チャレンジルームへ提出する。
- ⑦ **退室**：転居・転校等では保護者はチャレンジルームに退室書類を提出する。

(5) 活動時間

項目	活動時間
朝の会・読書タイム	午前9時15分から9時30分まで
1時間目	午前9時30分から10時まで
2時間目	午前10時15分から11時まで
3時間目	午前11時15分から正午まで
昼食・昼休み	正午から午後1時まで
午後の活動	午後1時から2時15分まで
掃除	午後2時15分から2時30分まで
帰りの会	午後2時30分から2時45分まで
帰宅	午後2時45分

(6) 相談日時

原則として、土日祝日、年末年始の休日を除く、午前9時から午後4時まで。

2 活動内容

(1) 相談活動の実際

チャレンジルームへの相談は、①在籍校の担任や学校派遣相談員及びスクールソーシャルワーカーの紹介による相談、②リーフレットや教育支援センターだよりなどの広報誌を見た保護者からの直接連絡の場合がある。いずれの場合でも、まず在籍校と相談のうえ、保護者との面談を行い、入室を考える場合には、必ず親子での見学をしたうえで判

断してもらうことにしている。また、前述のように、在籍校との連携が欠かせないことから、入室願いは保護者から在籍校経由で提出することになっている。

(2) 来室児童生徒への支援

① 相談支援

来室している児童生徒の多くは、学校や友達に関することや家族関係等の悩みを抱えている。指導員に相談し、不安な気持ちや自分の思いを話すことで和らげている。また、毎月振り返り面談を行いながら児童生徒の相談に対応している。なお、進路の相談は保護者会や個別面談などを通して、丁寧に行っている。

② 学習支援

不登校の要因の一つに学習面でのつまずきがある。そのため、個々の学習理解度に応じた個別学習支援を行い、基礎・基本の定着を目指している。

③ 生活・集団活動支援

来室児童生徒は体育的活動の機会が少ないため運動不足になりがちで、そのことが、「夜眠れない → 深夜起きている → 朝起きることができない」という悪循環の一因にもなっている。そのため、午前中の来室を心がけさせるとともに、卓球やバトミントン等、総合体育館や屋外での運動や遊びを積極的に行っている。

また、茶道教室、食育教室（そば打ち・うどん打ち）、創作教室（絵手紙など）等の体験学習や季節のお楽しみ会（納涼祭、七夕、クリスマス会など）、遠足等の行事を通して集団活動への意欲を高めるよう工夫している。

④ 在籍校と連携した進路指導

不登校状態のまま中学3年生になると将来の進路への不安が大きく、精神面で不安定な状態になりやすい。在籍校の進路面談や進路指導の実施状況を見ながら、チャレンジルームでは進路学習会や個別面談・保護者会を通じて情報提供を行い進路への不安の解消に努めている。

⑤ 長期休業中の活動

チャレンジルームでは、子どもたちの通室や生活のリズムを守るために、夏休み中も10日程度の休業を除いて活動している。

(3) 来室できない児童生徒への支援

① 電話による支援

来室が一時的に途切れる場合には、再び引きこもってしまう心配があるため、指導員が電話などで保護者と連絡を取り合い、状況によっては訪問支援を行う。

② 保護者への支援

家に引きこもるケースでは保護者や家族の精神的負担が大きい。保護者や家族の精神的な安定を図るためにも、保護者と話し合う機会をもつなど継続的なアプローチをしている。

3 相談の現況

(1) 令和3年度来室児童・生徒数（実人数）

区分	前年度継続	新規	合計
小学生	0	5	5
中学生	10	16	26
合計	10	21	31

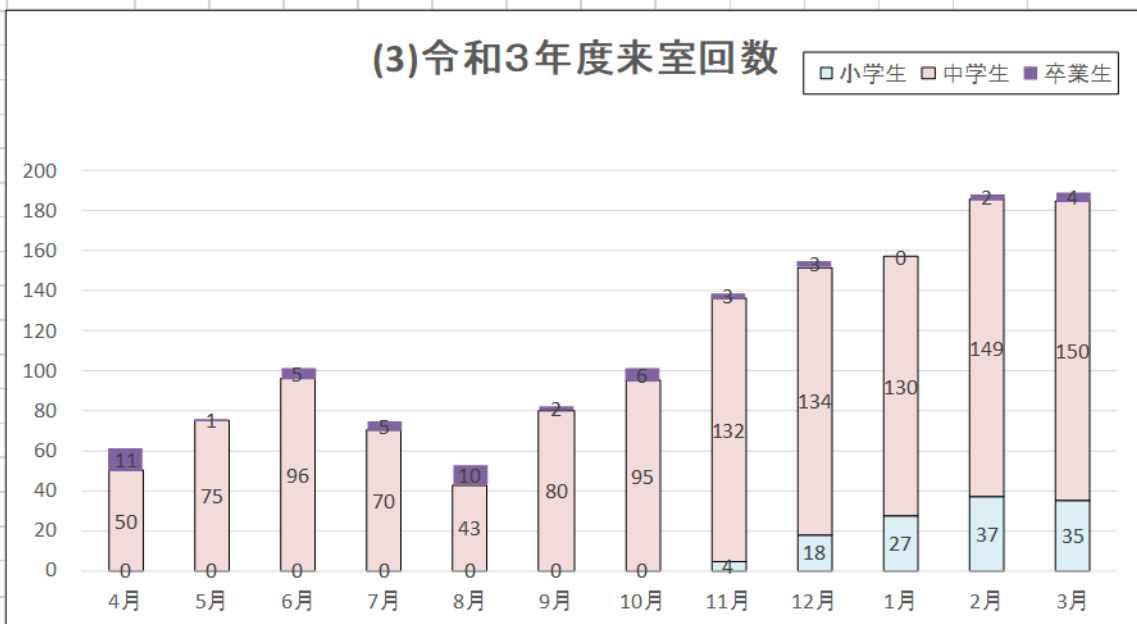
(2) 令和3年度来室児童・生徒数（月別実人数）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
小学生	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	4	5	15
中学生	7	10	13	11	8	8	12	15	16	16	17	19	152
小計	7	10	13	11	8	8	12	16	18	19	21	24	167
卒業生	5	1	5	4	5	1	3	1	3	2	2	4	36
計	12	11	18	15	13	9	15	17	21	21	23	28	203

(3) 令和3年度来室回数（月別延回数）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
小学生	0	0	0	0	0	0	0	4	18	27	37	35	121
中学生	50	75	96	70	43	80	95	132	134	130	149	150	1,204
小計	50	75	96	70	43	80	95	136	152	157	186	185	1,325
卒業生	10	1	5	5	8	1	6	1	3	2	2	4	48
計	60	76	101	75	51	81	101	137	155	159	188	189	1,373

(3) 令和3年度来室回数



(4) 令和3年度面談支援回数（月別延回数）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
小学生	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	4	4	13
中学生	3	3	9	10	7	8	19	24	26	19	18	30	176
小計	3	3	9	10	7	8	19	25	29	20	22	34	189
卒業生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	3	3	9	10	7	8	19	25	29	20	22	34	189

(5) 令和3年度電話相談回数（月別延回数）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
小学生	0	2	1	0	3	0	0	0	12	8	13	14	53
中学生	56	54	39	28	11	31	55	58	61	64	49	56	562
小計	56	56	40	28	14	31	55	58	73	72	62	70	615
卒業生	3	6	3	7	7	3	2	2	0	0	1	1	35
計	59	62	43	35	21	34	57	60	73	72	63	71	650

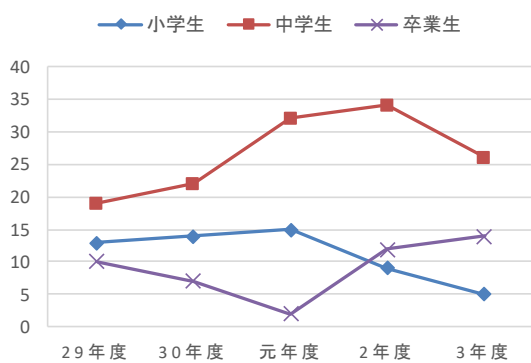
(6) 来室児童・生徒数の推移（実人数）

区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
小学生	13	14	15	9	5
中学生	19	22	32	34	26
小計	32	36	47	43	31
卒業生	10	7	2	12	14
計	42	43	49	55	45

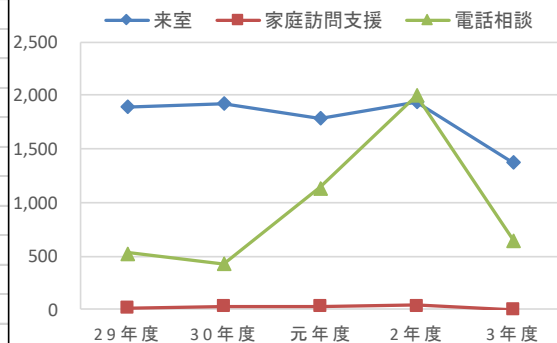
(7) 来室・家庭訪問支援・電話相談の推移（小中学生）

区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
来室	1,896	1,926	1,787	1,920	1,325
家庭訪問支援	19	35	34	39	0
電話相談	529	426	1,136	2,003	615
計	2,444	2,387	2,957	3,962	1,940

(6) 来室児童・生徒数の推移



(7) 来室・家庭訪問支援・電話相談の推移



(8) 相談・援助活動の現況					
区分	内容	令和3年度			
		小学生	中学生	計	
ア. 家庭訪問	訪問（家庭）や登校支援をした。	0	0	0	
イ. 家庭訪問と来室	訪問中心だったが、一部来室した。	0	0	0	
ウ. 学校訪問	学校訪問をして学習支援にあたった。	0	0	0	
エ. 来室	来室して活動に参加している。	0	9	9	
オ. 時々来室	時々来室している。	5	13	18	
カ. 一時来室	短期来室・訪問したが、学校復帰した。	0	0	0	
キ. 一時来室	短期来室したが、来室できなくなった。	0	1	1	
ク. その他	その他	0	3	3	
計		5	26	31	
☆対象：31人（令和3年度に関わった児童生徒）					
(9) 不登校のきっかけと要因					
内 容		令和3年度			区分計
		小学生	中学生	計	
A 学校 生活 での 影響	ア. 友人をめぐる問題	2	7	9	22
	イ. 教師との関係をめぐる問題	1	0	1	
	ウ. 学業の不振	3	4	7	
	エ. 集団生活での問題	2	1	3	
	オ. 学校の決まりなどをめぐる問題	1	0	1	
	カ. 入学・転編入学・進級時の不適應	0	1	1	
B で の 家 庭 生 活 の 影 響	キ. 家庭環境の変化による問題	0	0	0	1
	ク. 家族関係による問題	0	1	1	
	ケ. 経済上の問題	0	0	0	
C 問 本 人 の	コ. 病気による欠席	0	0	0	10
	サ. 発達に関わる問題	1	5	6	
	シ. その他本人に関わる問題	2	2	4	
D 他	ス. 学校教育の否定	0	0	0	0
☆一定期間通室し分析可能な児童生徒 18名対象 複数要因あり					

(10) 中学生の進路状況（当室生徒）

	29年度			30年度			元年度			2年度			3年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
都立単位制・チャレンジスクール	1	3	4	3	3	6	2	2	4	1	2	3	4	5	9
都立普通高校	0	1	1	0	0	0	0	1	1	2	1	3	0	0	0
私立高等学校	0	0	0	2	1	3	1	2	3	1	1	2	0	0	0
私立高等学校（通信制・サポート校）	1	1	2	1	2	3	3	0	3	1	2	3	0	1	1
専修学校、その他	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	1	1	0	0	0
合計	2	5	7	6	6	12	7	6	13	5	7	12	4	6	10

ここ数年、年度末の保護者会や7月の保護者会などで進路状況の説明をして、早めに進路選択への意識を喚起し、また、学校見学などの情報が極力伝わるように心がけている。

(11) 令和3年度実施行事

実施年月	内容
令和3年	4月 遠足(多摩六都科学館)
	7月 七夕会、進路保護者会(中3)、保護者会、進路面談(中3)
	8月 納涼祭(ゆるスポーツ大会)
	10月 遠足(高尾山)、食育教室(芋掘り)
	12月 クリスマス会、保護者会、進路面談
令和4年	1月 防災教室(応急救護訓練 AED 心肺蘇生法)、創作教室(墨でアート)
	3月 お別れ式(中3、小6)、保護者面談

4 研修

令和3年度に実施した研修

日時	場所	研修テーマ及び内容
・6/7	チャレンジルーム	○『性の多様性と子ども理解』 埼玉大学基盤教育研究センター准教授 渡辺 大輔先生
・7/14	チャレンジルーム	○『不登校や発達障害のある子への学習支援』 明星大学心理学部教授 小貫 悟先生
・7/26	都立世田谷泉高校	○『高校見学(計2回)』 進路指導をより充実させるために、通信制等の高校見学を実施した。
・7/28	都立稔ヶ丘高校	